

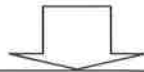
第3学年 国語科学習指導案

日時 平成27年9月18日(金) 5校時
児童 男6名 女8名 計14名
指導者 高橋 江利子

- 1 単元名 分かりやすいせつ明で、「食べ物へんしんブック」を作ろう
教材名 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」(光村図書 3年下)
補助学習材 「すがたをかえる米・麦」学研教育出版 他

<主となる指導事項>

- ◎目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと 【C読むこと イ】
- ◎文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること 【B書くこと イ】



<付けたい力>

- ・中心になる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解して読む力
- ・事柄のまとまりを意識して段落を分け、説明する文章を書く力

<単元を貫く言語活動>

中心になる語や文に気をつけて「食べ物へんしんブック」で説明する

2 単元について

(1) 児童について

これまで学習してきた説明的な文章では、第2学年「しかけカードの作り方」で、写真や絵を提示することや、「まず」「次に」などの言葉を使う工夫を学んでいる。「初め」「中」「終わり」で構成をとらせることは繰り返し学んできており、第3学年「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」では、「中」の部分で事例を列挙した構成を学習している。また、「段落」の意味や働きについて知り、自分が考えたこまについて発表する言語活動に取り組んできた。

日常においては、国語に関心をもち、課題に対して一生懸命取り組むが、自分の考えをまとめて話すことができる児童は限られている。読書が好きな児童も多いが、語句の意味や話の内容を十分理解しておらず、調べ学習などで必要な情報を見つけることは難しい。

国語科意識調査を見ると、話すことは苦手でも、文章を書いて考えをまとめることができ、いろいろな言葉を使って表現することを楽しんだり、友達の考えを聞いて分かることに喜びを感じたりする子が多い。また見通しをもてないと戸惑ってしまったり、面倒な活動に苦手意識を感じたりしていることが分かった。児童が興味をもつ学習課題を設定し、学習活動の工夫や個に応じた支援を通して、児童に「できた」喜びを味わわせていきたい。

そこで、本単元では、児童に身近な食品について分かりやすい説明のしかたをまとめ、学習したことを自分なりに応用して新しく得た知識を説明する文章に書くことで、活動を楽しみ、大きな達成感を得られるようにしていきたい。

(2) 教材について

「すがたをかえる大豆」は、大豆やその加工食品について書かれたもので、児童に身近な題材である。また、自分の食生活や日本の食文化を見つめ直すことにつながり、食育という観点からも貴重な題材である。本教材は、大豆をおいしく食べるための工夫を五つの例で説明している解説型の文章である。「中」の段落は、各段落の最初の文が、説明の中心になる文となっている。各段落の説明の中心になる文から、変化のしかたが複雑になり大豆のすがたがだんだん変わっていくことに着目させたい。そして、「いちばん分かりやすいのは」「さらに」などの言葉を細かく読み取ることで、事例が提示される順番にも考えを及ばせ、累加の接続関係であることを理解させ、段落相互の関係をとらえさせる。また、絵や写真と本文を対応させることで、読み手にとって分かりやすい説明文になることを学習する。

「食べ物のひみつを教えます」では、「すがたをかえる大豆」で学習した説明のしかたをふまえながら、説明する文章を書く課題を設定している。題材として選択した食材がどのように「すがたをかえる」のかという、変化の広がり（食品の種類）と変化のしかた（おいしく食べる工夫）を事例として明らかにし、説明する文章を書く。適切な事例を挙げて一段落に一つの事柄を書くこと、各段落では、はじめに要点を提示するなどの分かりやすい説明のしかたをとらえ、説明する文章に生かせるようにする。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として、「中」の段落における形式段落の一文目を中心文にする説明的な文章の表現の仕方を知り、自分が選んだ食べ物について説明する「食べ物へんしんブック」を作ることを位置付けた。身近な食材、食品への関心を高めながら、学習して習得したものを活用し、定着させることができると考える。「食べ物へんしんブック」は、児童が意欲をもって中心になる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読んだり書いたりすることを実現できる言語活動である。

第一次では、児童に身近な食品を想起させ「食べ物へんしんブックを作ろう」という課題と、学習計画をたてる。そのために「すがたをかえる大豆」で説明のしかたを学習することとし、学習への意欲付けを図りたい。

第二次では、既習教材を想起させ、「段落」という学習用語や説明文のおおまかな構成について振り返る。教材文を「はじめ」「中」「終わり」の大きく三つに分けてから、「はじめ」と「終わり」の内容と役割をとらえる。既習教材との違いとして、「はじめ」には「問い」がなく、話題提示から書かれていることにも気付かせたい。その後、全体の構成や段落の内容、表現方法など具体的な「分かりやすい説明のしかた」について、教材文を例にして学習をすすめていく。大豆の姿が変わっていく教材文の内容に興味をもたせながら、今まで学習した教材文と比較させたり、接続語や文末表現、写真などの使い方の具体例を考えさせたりして、分かりやすい説明のしかたについて考えさせる。なお、第二次では、学習したことを第三次に生かす活動として、「ひろげる」の段階で「食べ物へんしんブック設計図」を作成する。

第三次では、分かりやすい説明のしかたをまとめた設計図をもとに、自分が選択した食べ物についての図書から必要な情報を取り出し、説明する文章を書く。

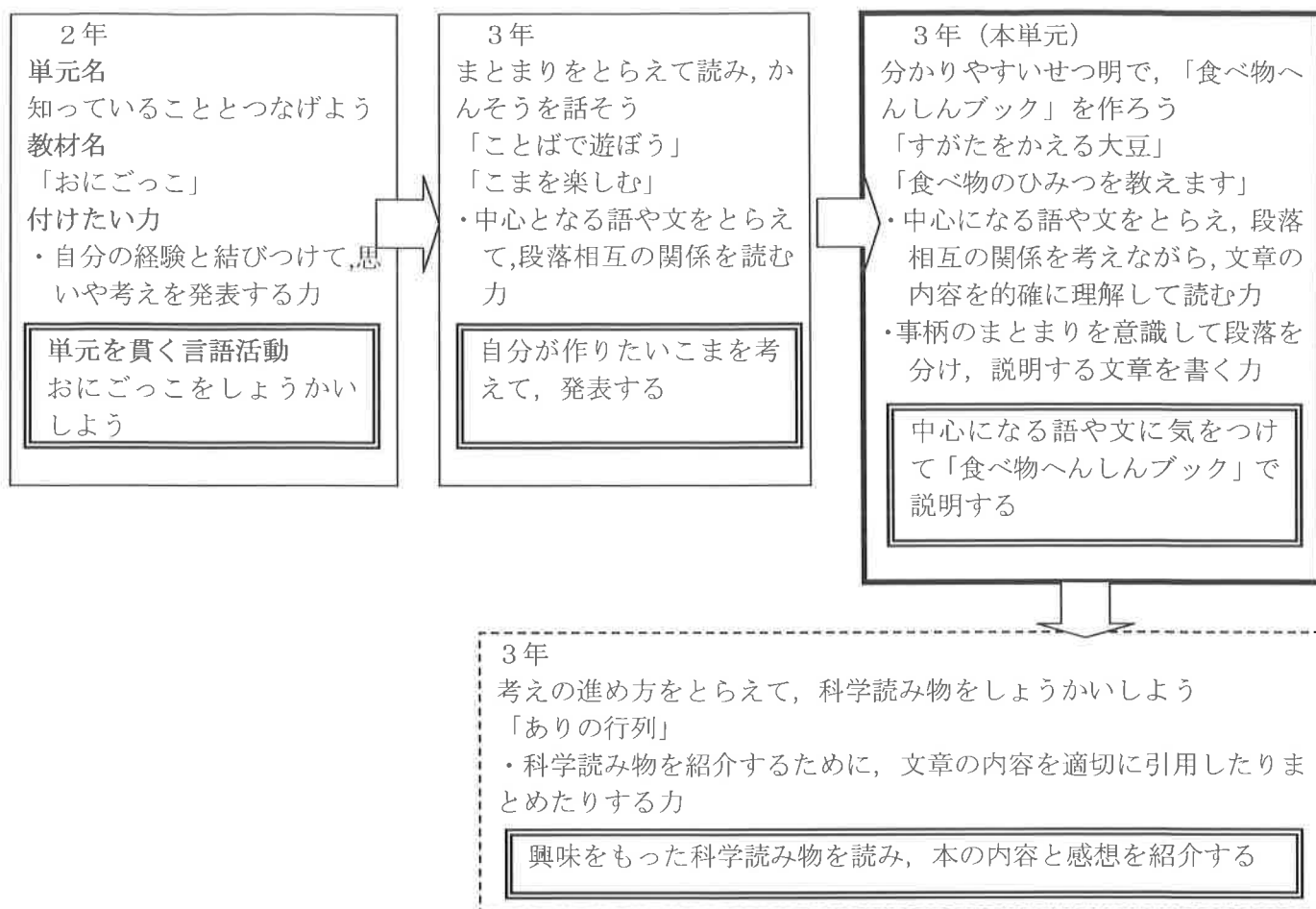
3 単元の指導目標

	指導目標
国語への関心・意欲・態度	・教材文の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。
読むこと	・中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
書くこと	・「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・文中の語句について、国語辞典を利用して調べることができる。

4 単元の評価規準

	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・すがたをかえる食べ物に関心を持ち、「食べ物へんしんブック」で分かりやすく説明しようとしている。
読む能力	・題名や「問い」に着目して中心になる文を見つけ、変化のしかたが簡単なものから説明されていることを理解している。(イ)
書く能力	・「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、最初が中心文になる文章を構成している。(イ)
言語についての知識・理解・技能	・文章中の語句や記述に注目し、国語辞典を使って調べている。(イ(カ))

5 系統的な学習の流れ



6 単元構想 (全14時間)

次	時間	ねらい ・ 主な学習活動	評価規準	指導上の留意点
第1次	①	単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 ・「食べ物のひみつを教えます」を読み、調べたい食べ物を決め、どんなことを調べるか見通しをもつ。	【関】「すがたをかえる大豆」の文章の書き方を生かして、「食べ物へんしんブック」を作ることに興味をもっている。[観察]	・大豆や米、たまごなどを使った食品の実物や写真を見せてイメージをもたせる。
	②	・学習課題「食べ物へんしんブックをつくらう」を設定し、学習計画を立てる。	【読】文章のおおまかな内容をとらえるとともに、単元全体の流れを確認して学習計画を立てている。[発言・記述]	・説明する文章を書くためという目的意識をもたせ、できるだけ児童に話し合わせて学習計画を決める。
第2次	③	「すがたをかえる大豆」の文章の組み立てや中心になる言葉、文をとらえながら読む。 ・段落分けを確かめ、文章全体の構成をとらえる。 ・補助学習材を読み、材料を決める。	【読】「はじめ」「中」「終わり」の全体構成をとらえている。[発言・記述]	・それぞれの段落にでてくる食品をまとめ、「はじめ」「中」「終わり」にわけける。 ・調べようとしたきっかけや理由を明確にさせる。
	④	・「はじめ」と「終わり」に書かれていることをとらえる。 ・「問い」がないことについて考え、「はじめ」の役割と文章全体の話題をとらえる。 ・自分の選んだ材料について「はじめ」と「終わり」の文章を書く。	【読】「問い」を含まない形で話題提示をする「はじめ」の働きや全体のまとめの役割になる「終わり」について理解している。[発言・記述]	・「問い」を考えることで、筆者が説明して伝えたいことをとらえさせる。 ・モデル文を参考にさせて「はじめ」と「終わり」の文章を書かせる。



<p>第3次</p> <p>活用</p> <p>活用</p> <p>活用</p> <p>活用</p>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 事例や言葉に注意して「中」をくわしく読み、大豆をおいしく食べる工夫と具体例を整理してまとめる。 選んだ材料から作られる食品名を調べる。 	<p>【読】各段落で述べられる具体例をとらえ、内容を整理している。[発言・記述]</p> <p>【言】文章中の語句に注目し、国語辞典を使って調べている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大豆を加工するときに使われる言葉に注意しながら、各段落でどんな工夫が書いてあるかをとらえさせる。
	⑥ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「中」をくわしく読み、中心になる文を見つける。 段落の組み立てについて、第3次に生かしたいことをまとめる。 	<p>【読】「問い」やキーワードに着目し、段落の中心となる文をとらえている。[記述・発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「中」はすべて一文目が中心文の文章構成になっていることを理解させ、分かりやすい説明のしかたをとらえさせる。
	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 説明されている順序と写真の効果について考える。 食品名などを付箋に書き、説明の順序を考える。 	<p>【読】変化のしかたが簡単な順に説明するよさについて理解している。[発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事例を挙げる順序も文章の工夫であることをとらえさせる。
	⑧	<p>中心になる語や文をとらえて「食べ物へんしんブック」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ材料についてくわしく調べる。 	<p>【書】書く目的によって必要になる事項と観点を理解し、取材方法を考えることができる。[記述]</p> <p>【言】文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ材料についてさらに調べたいことを書き出し、どのような方法で調べるとよいか考えさせる。
	⑨	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい文章の組み立てを考える。 	<p>【関】食べ物について関心をもち、調べて分かったことを説明しようとしている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 構成や接続語などを参考にさせる。
	⑩	<ul style="list-style-type: none"> 短い文章に書き表す。 	<p>【書】必要になる事項と観点を理解し、取材している。[記述]</p> <p>【言】文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。[観察]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を取捨選択させながらまとめさせる。
	⑪	<ul style="list-style-type: none"> 事例をあげながら分かりやすい表現で文章を書く。 	<p>【書】「中」で内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成している。[記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい文章になるように、接続語や絵の入れ方を考えさせる。
	⑫	<ul style="list-style-type: none"> より分かりやすい説明するために助言し合ったことを生かして、清書する。 	<p>【書】必要に応じて、理由や事例を挙げて書いている。[記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流のグループは、実態に応じて、適切な形態を考える。
	⑬	<ul style="list-style-type: none"> 完成した文章を読み合い、互いの文章のよいところについて、伝え合う。 	<p>【書】互いの書き方を比べ、上手に説明しているところに気づいている。[発言]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いに読み合い、よいところをみつけさせる。
	⑭	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返って、これからどのように生かしていくかを考える。 	<p>【関】学習したことを振り返り、学習のよさに気づくことができる。[発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえろう・いかそう」を読み、生活のどんな場面で生かせるか考えさせる。

7 本時の指導 (6 / 全 1 4 時)

(1) ねらい

「中」の段落を読み、中心になる文を見つけることができる。

(2) 展開

階段	・ 主な学習活動 課題とまとめ 中心発問 ○児童の反応	指導上の留意点 ◇評価規準
つかむ 2分	1 学習課題を確認する。 (食べ物へんしんブックを書くために) せつ明の中心になる文について考えよう。 ・各段落から中心になる文を見つけることを確認する。	・第3次の言語活動の「食べ物へんしんブック」での説明を分かりやすくするために、今日は「中」の段落の中心になる文について学習することを確認する。
ふかめる 33分	2 学習課題を解決する。 (1) 第③段落、第④段落を読み、似ているところやちがうところについて話し合う。 ○一文目は、「くふう」について書かれている。 ○「くふう」の後「食品」について書かれている。 ○第③段落は5文だが、第④段落は2文しかない。 (2) 中心になる文はどれになるか、話し合う。 ○「くふう」して「食品」になるので、「くふう」について書かれた文が中心になる文になる。 ○「どことなくふうをしてきたか。」が「問い」なので、その答えが中心になる文になる。 (3) 第⑤～⑦段落を読み、中心になる文を見つける。 (4) 第③～⑦段落の中心になる文を比べて、気がついたことを話し合う。 中心になる文とは、どんな文でしょう。 ○「問い」の答えが中心になる文になる。 ○「くふう」という言葉が使われている。 ○段落の初めに書いている。 ○つなぎ言葉が使われている。 (5) 中心になる文が最後になった文章と比べて気がついたことを話し合う。 ○段落の最初にあった方が、説明の内容が分かりやすい。 ○最初にあると、大事な文章を見つけやすい。 3 学習のまとめをする。 ・児童の発言をもとに、中心になる文についてまとめる。	・二つの段落を比較させることで、文章の構成に着目させる。 ・写真と対応させ、食品の数の違いをとらえる。 ・中心になる文を見つけにくい時は、まず第④段落から考えさせ、第③段落に当てはまるか考えさせる。 ・全体構成や「問い」などの既習内容を想起させ、中心になる文は「問い」や「くふう」に関係があることに気付かせる。 ・「くふう」がキーワードになっていることに気づかせる。 ◇「問い」やキーワードに着目し、段落の中心となる文をとらえている。 [記述・発言] ・各段落の中心になる文をつなげると、短くまとまることに気づかせ、中心になる文の役割について考えさせる。 ・中心になる文を入れかえた文章を提示し、筆者の説明のくふうについて考えさせる。 ・中心になる文についてと分かりやすい説明のしかたを分別しまとめる。
ひろげる 10分	4 学習を振り返り、「食べ物へんしんブック設計図」に記入する。 ・第3次に生かしたいことを記述する。 5 学習を振り返る。 6 次時の学習内容を確かめる。	・中心になる文や「中」の段落の構成についてまとめさせる。 ・早く終わった子は、自分が選んだ題材についての中心になる文を考えさせる。 ・次時は、説明の順序について考えることを伝える。

分かりやすいせつ明で、「食べ物へんしんブック」を作ろう
すがたをかえる大豆 国分 牧衛

④せつ明の中心になる文について考えよう。

③段落
いちばん分かりやすいのは、大豆その形のままだったり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。いと、豆まぎに使う豆になります。水につけてやわらかくしてからにと、に豆になります。正月のおせちりょうりにつかわれる黒豆も、に豆の一つです。に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色の大豆が使われます。

④段落
次に、こなにひいて食べるくふうがあります。もちやだんごにかけるときは、大豆をいって、こなにひいたものです。

にているところ くふう↓食品
ちがうところ 文の数

⑤また、大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもあります。

⑥さらに、目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。

⑦これらのほかに、とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方もあります。

中心になる文は
段落の内ようをまとめた文 問いの答えになる文
「くふう」について書いている。
中心になる文を読むと、文章の内ようがわかる。
中心になる文は段落のはじめに書いてある。

中心文を入れかえた文

⑤
分かりやすいせつ明 段落のはじめに中心になる文を書く。

9 モデル文

たまごのへんしん

たまごには、いろいろな食べ方のくふうがあります。

まず、ゆでるくふうがあります。たまごをからがついたままゆでると中身がかたまり、ゆでたまごになります。

次に、かきまぜてあわだてるくふうがあります。白身はあわだてるとメレンゲになります。ふわふわのメレンゲは、マカロンやマシユマロなど、いろいろなお菓きのざいりようになります。

さらに、まぜて使うくふうがあります。すと油とたまごをまぜ合わせるとマヨネーズになります。すと油はもととまざりあいません。しかし、たまごの黄身を入れるとまぜあわせることができるのです。

このように、たまごは、くふうされて、いろいろなすがたになって食べられているのです。

10 補助学習材

	本の名前	著者・監修	出版社
1	身近な食べもののひみつ すがたをかえる米・麦	幕内秀夫	学習研究社
2	身近な食べもののひみつ すがたをかえる豆	幕内秀夫	学習研究社
3	身近な食べもののひみつ すがたをかえる野菜・きのこ	幕内秀夫	学習研究社
4	身近な食べもののひみつ すがたをかえる果実・種実	幕内秀夫	学習研究社
5	身近な食べもののひみつ すがたをかえる魚・海そう	幕内秀夫	学習研究社
6	身近な食べもののひみつ すがたをかえる肉	松岡昭善	学習研究社
7	身近な食べもののひみつ すがたをかえる牛乳・たまご	古川 徳	学習研究社
8	食べものはかせになろう！豆からつくる食べもの	石谷孝佑	ポプラ社
9	食べものはかせになろう！米・麦からつくる食べもの	石谷孝佑	ポプラ社
10	食べものはかせになろう！牛乳・肉・たまごからつくる食べもの	石谷孝佑	ポプラ社
11	食べものはかせになろう！魚・海そうからつくる食べもの	石谷孝佑	ポプラ社
12	食べものはかせになろう！野菜・くだものからつくる食べもの	石谷孝佑	ポプラ社
13	たべもの	無藤 隆	フレーベル館
14	おもしろふしぎ 日本の伝統食材6 いわし	おくむらあやお	農山漁村文化協会